



西村 元一 議員



完成が待たれるラウンドアバウトへつながる避難道路

道路整備事業と避難道路の考え方は

問 ①町道西古泉筒井線の整備費用の内訳と完成は。

②避難道路として考える根拠は。

③海に近い本村・新立地区が、防災面から考えても先に整備すべきでは。

6万円、工事費6億4261万円、用地補償費6億4261万円となっている。

完成は令和3年度中を指している。

②市街地の渋滞緩和と今後発生が予想される南海トラフ巨大地震等の大災害に備え、町道筒井徳丸線から指定避難所である松前公園体育館までの避難路及び緊急輸送路として整備を進めている。

③本村・新立地区は戦前に建築された木造住宅が密集している。地区内の道路は幅員4メートル未満の町道や里道が大半だ。

緊急車両の通行困難、火災時の延焼の危険など防災面、住環境面において問題がある。

住環境改善事業により将来的には道路整備と区画整理の導入を検討していきたい。

問 ①ラウンドアバウトから南は農道では。なぜ町道にしたのか。
②エミフルMASAKIが撤退した場合はどうなるのか。

答 ①エミフルMASAKIが開業する前に松前公園へのアクセス路線として認定し、開業時に増大する交通量に対応するため道路を拡幅した。

②拡幅部分は民地だが、本町と株式会社FJとの間で土地貸借契約を結び道路としての使用权を取得している。撤退の有無に関係なく引き続き現状のまま残す方向で、民地所有者と協議を行いたい。

きるように、県に強く要望していきたい。

浸水被害の軽減に向けた水害対策を

問 ①土のうを積んでの浸水被害の軽減は。
②トンネル工法の排水施設の事業計画は。
③江川遊水地の悪臭問題は。

答 升田副町長

①長尾谷川河口部周辺では、潮位が高い時に大雨が重なった場合、自然排

水ができず一部排水ポンプで海へ内水排除をするが、ポンプ能力が不十分で地盤が低い箇所では内水氾濫が発生するため土のうを積んで浸水被害の軽減を図る。抜本的対策ではないが、老朽化したポンプの更新を行い、筒井地区排水路の断面拡幅工事に着手する予定だ。

②この計画には約56億円の事業費がかかり実施には至っていない。効果的で実現可能な計画に改め、雨水対策を実施したい。

③県が管理する施設だが現在、葦などが多く茂り堆積したヘドロから悪臭が発生している。町としても住民の願いが実現で

